



平成 25 年 4 月 12 日 第 3 卷(第 1号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目次

1. 現地活動報告
2. 現地感想文
3. 災害対策本部からのお知らせ
4. 事務所感想文

◆ 現地職員急募！！ ◆

詳細は「3. 災害対策本部からのお知らせ」をご参照ください。



高校生の活動

— 現地石巻 photo —

*** 1. 現地活動報告 ***

活動期間:2013年 3月5日~3月7日

川口 雄幸 (石川県 金沢脳神経外科病院)

被災地の報道を目にする機会は多く被災から2年経ち1年前よりも復興が進んでいると思いながら被災地に行きました。

確かに瓦礫などは撤去されていましたが家などが点々としかない状態は変わっていませんでした。自宅を訪問させていただき1階が流され2階で生活している方や被災のショックから外出できなくなり仕事をする人が会いました。

被災から2年経ち、被災者が抱えている問題は変化し復興するまでには時間がまだまだかかるという事を実感しました。そして、被災の記憶が薄れつつあるが被災から2年を迎える時期ということもありその当時の事を思い出して苦しんでいる方が多くいました。自分達は被災地で見た事を多くの方に伝えていく必要があると感じました。

最後に自分が一番感じた事としては被災地の方達が持っている力でした。活動をするに当たってどうしても支援しなければいけないと感じていましたが逆に困難な状況に置かれても必死に復興しようとしている姿や明るい笑顔や言葉に大きな力を貰うことができました。

<参加を検討している方へのメッセージ>

2回目の活動でしたが今回も多くを学び被災者の方から大きな力を貰う事ができ活動に参加してよかったと思っています。沢山の方に被災地を見ていただき多くの事を感じていただきたいと思います。



復興祈念塔

活動期間:2013年 3月17日～3月20日

筒井 万紀子 (神奈川県 戸塚共立リハビリテーション病院)

今回は石巻で引き続き在宅避難世帯の訪問、仮設住宅のケース検討会議等に参加させて頂きました。

在宅避難世帯の訪問を行うと、家の周辺や家の中の様子、その中でご本人が家族と共にどのように過ごされているのか、多く感じる所がありました。また、その中でご本人が何に問題を感じているのかじっくり聴いて、支援を行うことが出来た時間は自分にとってはとても貴重な時間だったように感じます。

普段病院に勤務しているので、病院での患者さんやご家族を多く見てきましたが、「家」にいる本人を見るということの重さ、どんなにケースが多くても、一人一人ときちんと向き合って話を聴いて支援を行っていくことの大切さを痛感しました。

仮設住宅のケース検討会議では、仮設住宅ならではの課題がまだまだ残っていることを痛感しました。また、この被災地での様々な専門職や地域の方々による支援体制は、将来的には、様々な地域で利用可能な体制になるのではないかと感じました。

<参加を検討している方へのメッセージ>

仕事をしている中で、現地まで行くのは大変なことだと思いますが、行って学ぶことも大変多いと思います。是非、一度、行ってみて下さい。



石巻 被災区域にある洋菓子店
— 現地石巻 photo —

活動期間:2013年 3月18日~3月20日

山森 道代(東京都 慈誠会 浮間舟渡病院)

20年前に住んでいたのが友人がおり震災まで毎年訪ねていました。震災後は個人で被災した友人宅を回っていましたが、今回ボランティアとして初めて活動させていただきました。

「自立支援」という枠組みの活動で自宅にいらっしゃる方への支援でした。訪問4件、電話相談を1件させていただきました。また、河南地区でのケース会議へ出席させていただく機会にも恵まれ地域の方の活動の様子や課題の数々をうかがうことができました。被災が直接的な原因というよりも震災前からあった支援を要する課題が表面化または深刻化したケースが多いように感じました。もし震災がなければ声を掛ける機会もなく気付かれずにいたケースもあるかもしれません。

活動初日は「専門家の介入拒否ケース」を担当させていただきましたが今回の訪問時には抵抗なくお話を伺うことができました。震災から2年が経過して住民の方にもほんの少し心のゆとりが戻ったのでしょうか。震災直後にインテークで回られた方々のご苦労がいかにばかりかと思わずにはいられませんでした。

震災前から公共の交通機関が不便でほとんどの家庭は成人の数だけ車を所有していた地域柄、買い物や通院への移動手段は自家用車のため高齢者や身体障害者だけの家族になってしまった方々にとっては移送手段の解決が急務であることも感じました。

あるケースのお宅まで地図をみながらもう一人の活動員と歩いていると老人会の会長さんがお声を掛けて下さり家を教えてくださいました。その方の近況を教えてくださいたり両隣も独居なので「声を掛けてやって欲しい」と、私たちの活動への理解とあたたかい協力を頂き、頭が下がる思いでした。

「お茶っこ」の文化が残り家族のきずなが強い地域だからこそ元々のコミュニティに留まれた人は助け合って頑張っていますが、コミュニティが奪われてしまった方の「孤独感」は都会のそれとは比べ物にならないほど強いかもしれません。自殺未遂が増加しているとも伺い、今いるところでの生きがいを見出す支援も必要であると感じました。という風に、2年目だからこそこの課題があることを学ばせて頂いた3日間でした。

現地スタッフの久保木さん、富永さんには本当にお世話になりました。これから新しいステージでご苦労も多いと思いますが、陰ながら応援しております。大好きな石巻が変わり果てた姿になって息子と歩いた道を涙なしには歩けなかったのですが、今回の活動で私自身も力を頂いて現実を受け止めて一歩踏み出せた気がします。訪問させて頂いた方々や食事処でお目にかかった方々などすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。又、是非参加したいと思います。

<参加を検討している方へのメッセージ>

私に何ができるかしら？お役に立てるかどうかが心配でした。今回もお役にたてたかどうか？でも、私は貴重な経験をさせていただきました。たった3日間というのは震災から今後の復興への長い道のりの中で、ほんの一点に過ぎないかもしれませんが、多くのソーシャルワーカーの活動の蓄積が私たちの未来の生活を変えるものにつながると実感できた経験でした。日常のケースへの姿勢を振り返る機会になりましたし、スタッフとの交流がとっても楽しかったです。石巻はおいしいものがたくさんありますよ。是非、食いしん坊は参加されたし、です。

活動期間:2013年 3月22日~3月24日

伊藤 裕二(群馬県 渋川総合病院)

二回目の活動から、実に1年4か月を経ての三回目の活動でした。3日間という短い期間でしたが、現地ご担当の方にはたいへんお世話になりました。

一回目は、2011年4月、遊楽館で、二回目は同じく11月、仮設住宅訪問での茶話会など、そして今回、在宅の方への訪問です。私がうかがったご家庭は、震災以前からの生活(独居、居宅介護)を続けておられる方々でした。現地の方の、「笑顔や明るさは、‘笑うしかない’という状況、そこから‘さあ、これからどうしよう’という時期に入ったんだ」「仮設住宅で暮らす人たちを見て、私は家が残っただけでも幸せなんだと思った」という二つのメッセージは、鋭く心に響きました。

今は、私自身が住む町とあまり変わらないように見える夕暮れの石巻の町並みは、何かを問いかけているようにも思えました。

23日、遊楽館で「鴨川少年少女合唱団」と地元の「かなん合唱団 JOY」のコンサートを聴きました。唄には力があります。約2年ぶりの遊楽館でした。

<活動を参加している方へメッセージ>

自然体で・・・



古民家そば

— 現地石巻 photo —

*** 2. 現地感想文 ***

*** 4/1 秋山 知里 (静岡県 三島共立病院)

2年経過した今、石巻にはどんなニーズがあるのだろうか、また、ここへ来て私に何ができるだろうと考えていました。3年目になる今、引きこもりの問題やDVや虐待などの問題が見えてきています。震災で受けた傷や、やりきれない思いを家族にぶつけるのだろうと感じました。今後は、思いをぶつける場所が必要なのだと感じます。

今回、何件か訪問し実際に話をききました。それぞれが、それぞれの生活に戻り始めているようでした。しかし、そんな中でもやはり取り残されている人はいます。今後は、その人たちをどう支えていくのかが大事になってくるのだと感じました。機会があれば、また来たいです。

(活動期間:平成25年3/25~3/29)

*** 4/1 山野 泰久 (大阪府 済生会富田林病院)

震災3年目にして始めて参加させて頂きました。震災前の様子が解らず、一見すると被害がなかったと思われる所もあったのですが、協議会の方に案内と説明を頂き改めて被害の大きさに驚いています。復興、復旧の程度にばらつきが感じられました。復興に取り残される方、地域が無いよう支援が必要であると思います。電話や訪問でお話をお伺いしましたが、十分な聞き取りが行えず、申し訳ない思いです。

(活動期間:平成25年3/29~3/31)

*** 4/1 小林 昌靖 (大阪府 済生会新泉南病院)

普段と異なりゴールの見えない支援のため迷いも生じることがあった。個別訪問等でニーズを拾い上げているが、解決に向けてのプロセスやアウトカムが不明確であると思われ自己満足に陥る可能性もあるのではと考えます。

(活動期間:平成25年3/29~3/31)

*** 4/1 久保木 美由紀、富永 千晶(現地担当)

昨日は3月最終日ですが、石巻では雪が降りました。最近暖かい日が続いたのでとても寒く感じました。

本日より新年度。災害支援活動も新しい体制でのスタートです。現地担当者がそれぞれの場で活動することになります。それぞれ不安と期待を抱えながらの活動になります。

石巻では皆様の支援の活動をまだまだ必要とされています。

バトンをつないでいくために、今後も様々な形でのご支援をよろしくお願い致します。

*** 4/8 久保木 美由紀(現地担当)

新しい体制になり1週間が過ぎました。

今年度は昨年度に加え、社会福祉協議会、虐待防止センターへの派遣、引きこもりの親へのグループ支援、仮設の相談等があります。

仮設にどうかかわるか、どのくらいケースが増えるか未知数ですが、保健師さんより問題は増えてきているとの事で、SW支援が必要とされています。



新事務所風景

*** 3. 災害対策本部からのお知らせ ***

【1. 災害支援活動の継承】

平成 25 年度は発災より 2 年が経過したことにより、東日本大震災 災害対策本部から東日本大震災 災害対策委員会として新たな組織編成をし、活動を継続していきます。

【2. 現地職員募集】

*** 現地職員を1名緊急募集致します。

詳細は下記の通りです。

- ◆資格・経験：医療ソーシャルワーカー業務経験者
- ◆雇用形態：短期契約職員(社会保険加入)
- ◆雇用期間：長期の方優遇しますが応相談
- ◆給 与：基本給250,000円 東京までの月2回の交通費を支給
- ◆就業時間：8時30分～17時30分 ただし業務の関係で残業あり
- ◆休 日：土曜・日曜・祝日・年末年始 ただし業務の関係で休日勤務もあり
- ◆宿 舎：完備 費用負担なし

※お一人での活動ではありません！

協会、災害対策委員会、協力員との協力体制の下での業務です。

不明な点はお尋ね下さい。ご希望の方は下記までご連絡お願い致します。

(公社)日本医療社会福祉協会 東日本大震災 災害対策委員会

場所：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

時間：月～金 10時～17時

TEL：03-3351-5038

Mail：dsstsw@jaswhs.or.jp

【3.協力員募集】

*** 現 地

- 1). 現在、1日あたり上限2,3名で募集しております。
中3日以上、なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策委員会までお気軽にご相談ください。

*** 初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。

- 2). 4月30日～5月6日を活動休止期間とします。
この期間の活動への参加のご応募は受付致しません。

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

* 4月15日～4月26日はまだまだ空いております。
ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

*** 事務所

引き続き募集しております。
平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。ご協力をお願い致します。

【4.災害対策委員会】

4月9日現在 会議開催日程：未定

【5.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I』の販売を行っています。

発災から平成23年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。*ご注文は注文用紙で承ります。



*** 注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

●現在『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II』を発行準備中

【6.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【7.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

*** 4. 事務所感想文 ***

*** 4/9 金子 小夜子 (災害対策本部事務所)

平成 25 年度最初の災害支援ニュースです。新たな支援活動に向けて石巻現地のスタッフは準備中です。これから現地で活躍される方々にエールを送ります。

<編集後記>

発災から丸2年。年度が改まり災害支援ニュースは第3巻となりました。会員の皆さまに引き続き現地の様子をお伝えできればと思います。

(編集担当 群馬県 老年病研究所附属病院ソーシャルワーカー一同)

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 4 月 12 日 第 3 巻 1 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



上毛カルタ: ㊦おた(太田)金山

子育て呑龍
(群馬県 太田市)